

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：32519

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23730844

研究課題名(和文) 幼稚園黎明期における造形表現の特質とその展開過程に関する研究

研究課題名(英文) Study of Characteristics and Development Processes in Arts and Crafts at the Start of Kindergarten

研究代表者

牧野 由理 (Makino, Yuri)

城西国際大学・福祉総合学部・准教授

研究者番号：80534396

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、明治期の幼稚園における造形表現の特質とその展開過程を、幼稚園で使用していた一次史料の調査・図版分析と、「図画科」及び「手工科」との比較検討を通して明らかにした。その結果、一部の幼稚園では自然物等の実物や縦覧室(標本室)の標本等を手本として描かせるという教授方法により、実物主義がとられていたことが明らかとなった。また幼稚園で使用されていた一部の図画図版は「小学」の「図画科」及び「手工科」の図版と重複することが示された。

研究成果の概要(英文)：This research investigated the characteristic techniques and methods used by staff to teach arts and crafts in kindergartens in the Meiji era (1868-1912). It was possible to discover these methods by researching and analyzing primary historical sources, and by comparing "Zugaka" (drawn subjects) with "Shyuko-ka" (handicraft subjects). The findings show that in some parts of the kindergartens realia was used and the children were taught to sketch real objects from nature or to draw using sample specimens from a "Jyuranshitsu" (specimen room). Additionally, some of the same illustrations were used for "Zuga-ka" and "Shyuko-ka" in both kindergarten and elementary schools.

研究分野：美術教育学

キーワード：美術教育 図画教育史 美術教育史 明治期 幼稚園 掛図

### 1. 研究開始当初の背景

明治期において、日清戦争後の新たな教育政策が形成されるまで、図画工作教育は数々の方針転換や政策変更が行われており、それらに関して諸賢によって多くの研究成果が挙げられてきた。しかしながら、従来の近代造形教育史研究において取り込まれていないテーマが、「明治期における幼児造形教育史」である。

我が国において、はじめての公的幼稚園である東京女子師範学校附属幼稚園がつけられたのは明治9年(1876)である。この時期の幼稚園は、ドイツの教育学者でありキンダーガルテン(幼稚園)の創設者でもあるフレーベルの影響を受け、恩物中心主義の保育が行われていた。フレーベルは遊具として二十種類の恩物を製作したが、本研究で対象とする部分は、第十恩物であった「図画法」及び第二十恩物であった「模型法」いわゆる粘土細工である。これらに関する実証的な解明は現代の美術教育、造形教育を考察する上で不可欠なものであるといえよう。

### 2. 研究の目的

本研究課題は、日本における幼稚園の成立時期を東京女子師範学校附属幼稚園(現・お茶の水女子大学附属幼稚園)が創設された明治9年とし、近代日本における幼稚園教育の造形表現の特質とその展開過程を、幼稚園で使用していた一次史料の調査・図版分析と、小学・中学の「図画科」及び「手工科」との比較検討を通して明らかにするものである。

### 3. 研究の方法

本研究では、我が国における幼稚園の造形教育の変遷について実証的な解明をめざすために、明治初期に開園した幼稚園を対象とし、造形表現とくに「図画」及び「粘土細工」に関する教具等の調査・検討を行い、図版分析によって明治期の幼稚園で行われた造形表現を明らかにする。

次に小学・中学の図画科について論及した先行研究・史料を整理し、幼稚園の「図画」との相違を分析・検証する。また小学・中学の手工科で行われた粘土表現に関する先行研究や史料を分析し、幼稚園で行われた「粘土細工」との相違を検証する。

### 4. 研究成果

(1) 平成23年度は明治初期に開園した幼稚園の一次資料を収集し造形表現に関して調査・検討した。明らかになったことは以下のとおりである。

愛珠幼稚園の保育記録と描画作品を中心に調査・データ化し検討を行った。その結果、明治37年から41年までの保育記録の分析から「画方」ではほとんどが「随意」で行われ幼児にとって身近なものや

戦争に関するものを題材としていたことが示された。自然物等の実物や縦覧室(標本室)の標本等を手本として描かせるという教授方法により、実物主義がとられていた。描画作品の分析によって、ディティールの描写から幼児が軍艦の形体そのものに強い興味を持っていたことが明らかとなった。

土浦西小学校附属幼稚園に関しては明治期に作成され図画に使用していたと推測される掛図等の調査を中心に行った。現在まで明らかにされていなかった掛図の解説書の特定調査を行い、うち2点を確認した。また図版分析により「幼稚園手技掛図」では「画方」と他の手技との関連を図っていたことが示された。

京都府舞鶴市立舞鶴幼稚園および島根大学教育学部附属幼稚園については各々の幼稚園を訪問し一次資料の収集を行った。以上の「図画」に関する研究成果の一部は学会等で発表を行い、博士論文に収録することができた。

(2) 平成24年度は平成23年度に収集した資料のうち、愛珠幼稚園の描画作品集、および舞鶴幼稚園の教具(掛図・絵)を分析・検討した。

愛珠幼稚園の描画作品集「第五回内国勲業博覧会記念帖」について分析を行った結果、第五回内国勲業博覧会の特徴である余興(ウォーターシュートやイルミネーション、水族館、メリーゴーランド等)を描いていたことが明らかとなった。当時の保育記録より愛珠幼稚園では「博覧会」のイメージを共有していたことも示唆された。

図画を行う際に使用されたと推測される教具(掛図や絵)の実態を明らかにするために、京都府加佐郡舞鶴町立舞鶴幼稚園(現・舞鶴市立舞鶴幼稚園)を対象とし、現存する掛図および絵の調査分析を行った。その結果、舞鶴幼稚園では幼児が肉筆(手描き)の掛図や絵を通して本物の絵画作品に触れる機会があったことが明らかとなった。

掛図の一部ではあるが舞鶴市出身の日本画家・藤山鶴城とのかかわりが示された。日本画家の作品を幼稚園で直接見ることにより、幼児の図画表現の形成の一端を担っていたと考えられる。

(3) 平成25年度は島根大学教育学部附属幼稚園の一次資料を中心に図版分析・検討を行った。

島根大学教育学部附属幼稚園の所蔵している版画資料の中に明治期に購入した版画類があることを確認した。そのうち「図画」と記されたシールが貼付された版画資料が12点発見されており、これらの版画資料に園児が触れる可能性があった。

図画関連資料として『幼稚園手工標本』と題する手描きの手本が発見された。手工だけでなく「図画」についても図版があり、当時、「図画」を行う際に手本として使用していたと考えられる。図版の題材に関しては幼児にとって身近にあるものを取り扱っており、幼児に合わせて簡略化した図版となっていた。『幼稚園手工標本』に記されている作者の名前やクラスの組名より、外部の保育者の手によるものと推察される。手工や図画を行う際の手本について市販されていた書籍だけでなく、外部の保育者の情報も得ようとしていたことが明らかとなった。

島根大学教育学部附属幼稚園の園舎移転50周年記念式典(2013年11月29日)において明治期の教具・版画類などの展示を行うため、展示品解説(キャプション)を依頼され製作した。

平成25年度までの研究成果をふまえ、城西国際大学水田美術館で開催された展覧会「明治の子どもたち 版画にみる遊びと教育」において「明治の幼稚園 - 掛図・教具からみた図画教育 - 」と題する講演会(2013年12月6日)を行った。

(4) 平成26年度は島根大学教育学部附属幼稚園の資料を中心として、平成25年度までに収集した資料の図版分析を行った。

明治期の小学の図画・手工の図版と当時の幼稚園で使用された「図画」「粘土細工」の図版の比較検討を行った。それにより一部の図版において重複する図版を確認した。

InSEA オーストラリア大会において、これまでの研究成果の一部を発信した。その発表内容については「IRCN 国際交流情報」に「教具としての標本・版画に関する調査報告」として公表した。

平成25年度に行った水田美術館での講演会「明治の幼稚園 - 掛図・教具からみた図画教育 - 」について講演会内容をまとめ発表した。

以上の実証的な調査・検討による解明は従来の近代造形教育史研究において取り込まれておらず、今日の造形・美術教育を検討する上でも重要性が認められよう。

今後の展望として、収集した史料が膨大であり研究成果のうち発表していない部分もあるので、それを論文としてまとめ公表していきたい。また研究成果公開促進費を得ており、研究成果の一部は2016年に出版される予定である。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8件)  
牧野由理、山口真理子、展覧会「明治の子どもたち - 版画にみる遊びと教育」および講演会報告、城西国際大学紀要、査読無、第23巻第3号、2015年、pp.107-124

牧野由理、教具としての標本・版画に関する調査報告、IRCN 国際交流情報、査読無、第10号、2015年、p.3

牧野由理、明治期の幼稚園における掛図研究 - 舞鶴幼稚園の掛図に着目して - 、美術教育学、査読有、第34号、2013年、pp.443-454

牧野由理、研究ノート 幼稚園黎明期における造形表現の特質とその展開過程、美術科教育学会通信、査読無、第82号、2013年、pp.11-12

牧野由理、明治後期の幼稚園における描画作品の研究 - 「第五回内国勸業博覧会記念帖」を対象として - 、東京都市大学人間科学部紀要、査読無、第4号、2013年、pp.47-56

牧野由理、明治後期の幼稚園における図画教育 - 愛珠幼稚園の保育記録と描画作品から - 、美術教育学、査読有、第33号、2012年、pp.401-410

牧野由理、土浦幼稚園の掛図に関する研究、東京都市大学人間科学部紀要、査読無、第3号、2012年、pp.93-100

牧野由理、博士論文 明治期における幼稚園の図画教育の研究、筑波大学大学院人間総合科学研究科、査読有、2012年、pp.1-301

〔学会発表〕(計 7件)  
牧野由理、明治後期の幼稚園における図画教具に関する研究、第53回大学美術教育学会、2014年10月5日、福井大学

池内慈朗、牧野由理、It's a Small Small World 'Kawaii (cute)' and Miniature: How do children understand a difference of the real thing and the representation?、34th World Congress of the International Society of Education through Art (InSEA 2014)InSEA オーストラリア大会、2014年7

月 11 日、メルボルン（オーストラリア）

なし

牧野由理、島根県師範学校附属幼稚保育科における図画教育、美術科教育学会、2014 年 3 月 29 日、奈良教育大学

(3)連携研究者  
なし

牧野由理、明治の幼稚園 - 掛図・教具からみた図画教育 -、水田美術館「明治の子どもたち 版画にみる遊びと教育展」講演会、2013 年 12 月 6 日、水田記念美術館

牧野由理、明治後期の幼稚園における描画作品の研究 - 「第五回内国勸業博覧会記念帖」を対象として -、第 46 回日本美術教育研究発表会、2012 年 10 月 14 日、東京家政大学

牧野由理、舞鶴幼稚園の掛図・絵画に関する研究、幼児教育史学会第 8 回大会、2012 年 12 月 1 日、福岡大学

牧野由理、明治後期の幼稚園で描かれた図画作品の研究島、美術科教育学会、2012 年 3 月 27 日、新潟大学

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

牧野 由理 (MAKINO YURI)  
城西国際大学・福祉総合学部・准教授  
研究者番号：80534396

### (2)研究分担者